

Weekly コラム

令和5年12月12日

〒541-0055 大阪府中央区船場中央 2-1

船場センタービル 4号館 4階

船場経済倶楽部

Tel 06-6261-8000

(NPO 法人 SKC 企業振興連盟協議会) Fax 06-6261-6539

人の輪・衆智・繁栄

活動方針



当団体は、異なる業種の経営者が相集い、力を合わせ、自らの研鑽と親睦を通じて、斬新な経営感覚と新たな販売促進を創造して、メンバー同士でより健全な事業所とその事業所のイメージアップを図り、地域社会に貢献できる事業所となることを目的とする。

順位変動アリ

現在の世界 GDP ランキングは、1位アメリカ、2位中国、3位日本となっておりますが、2050年予想では1位中国、2位インド、3位アメリカとなり、残念ながら日本は8位まで転落すると予想されています。それに対し、現在のランキング圏外から大幅上昇してきたのが、4位インドネシアと7位メキシコです。

ニッケルは地球上で5番目に多い元素ですが、そのほとんどは地球最深部の核(コア層)に存在し、地球内部ではかなり偏った分布になっています。そして地表付近で最も多くニッケルが存在するのがインドネシアです。インドネシアのニッケル鉱石の生産量は、世界のほぼ半分を占めます。

またニッケルは、リチウムやコバルトなどと同じレアメタルのひとつに数えられており、腐植と酸化に強く高い融点と延性を持つ鉱物です。こうした特性からクロムなどほかの金属との合金とし、ステンレス鋼や耐熱鋼が作られます。さらにニッケルカドミニウム電池やニッケル水素電池、ニッケル酸リチウムイオン電池など、多様な電池材料として利用されています。こうした用途ではニッケルの代替できる物質がほとんどないため、近年は需要が急増しています。さらにインドネシアは2020年1月から国内産業や精錬所などへの外貨投資を促すためニッケル鉱石の輸出を禁止したことがあり、WTO と紛争になっていることや、インドネシアに次ぐ生産国であるロシアが昨年ウクライナ攻撃により制裁を受け輸出できなくなり、価格が一時急騰したことがあるなどの経緯があります。

メキシコも同じく資源国です。原油や銅、銀などの世界的生産地であるのはもちろんのこと、ここ最近では世界中の企業がメキシコへの進出が発表されています。特に EV 関連の進出が多く、完成車メーカーによる EV 車の製造に関する投資プロジェクトが発表されています。2020年7月、米国フォードが11億ドルの投資を表明し、翌2021年7月には、米国ゼネラルモーターズ(GM)が10億ドルを投資、その後ドイツのフォルクスワーゲンと BMW、オランダのステランティスといった欧州メーカーも、2022年10月と2023年2月にそれぞれ、7億6,350万ドル、8億ユーロ、2億ドルの投資を発表しています。そしてテスラの投資発表は、メキシコ内の EV 車生産プロジェクトとしては6案件目となっています。

ロシアのウクライナ攻撃以後、東西の溝が深まりつつある中、資源の行き来が難しくなる可能性は高まっていくものと思われます。資源を多く持つ国はますます交渉に有利になり、20世紀とはまた違う経済成長につながるかもしれません。そういう意味では、GDP ランキングも思いもよらない国が上位になれるかも知れません。



記事の内容に関するお問い合わせは事務局までご連絡ください。

ウィークリーはメールでの配信も行っております。お手数ですが、「メール希望」・「配信停止希望」と件名にご入力の上、

skc-soudan@skc.ne.jp まで空メールをご送信ください。また、FAX ご不要の際は、その旨をお電話にてお申しつけください。